

## マングローブの蜂蜜

ミャンマー・イラワジデルタの蜂蜜は天下絶品です。マングローブの一種、シマシラキやツノヤブコウジ、コヒルギの花蜜が最上等とされています。さらりとした琥珀色の蜜は、ほのかに潮と柑橘の香りがして、洗練と呼ぶには少々粗削りな野趣あふれる味わいです。ちびちび舐めていると、デルタの穏やかな波の音が優しくさざめき聞こえてくるよう。

この蜂蜜を得るには、ヘビやワニのいる密林に入り、危険を冒しながら天然の蜂巢を採取するしか方法はありません。養蜂が難しいのです。熟練のハニーハンターは煙草をプカプカ吐き出し、その煙で蜂を巣から燻し出します。労多くして益少なし。貴重な蜜です。しかも万病に効き、精もつくので、村人たちは薬代わりに重宝しています。免疫力を高めるため、新型コロナにも効き目があるかもしれません。

二年前、仲間のチョーソートン君が、苦労して集めたマングローブの蜂蜜をビール瓶に詰めてお土産に持たせてくれました。知人を通し、都内の某大学に成分分析をお願いしようとしたのですが、このコロナ禍、その後なんの連絡もなく、せつかくのマングローブ蜂蜜が水の泡に帰りました。惜しいことでした。

ミャンマーには面白い民話があります。『たったひとしづくの蜂蜜で滅んだ王国』の話。〈王宮からこぼれた蜂蜜に一匹のハエがきて、その上にクモ、そしてヤモリ、それからネコ、さらにイヌが来て襲いかかると、双方の飼い主が喧嘩を始め、しまいには町中の人々がネコ派とイヌ派に分かれて内戦に発展し、王宮も焼かれ王様も滅ぼされて……〉

今、ミャンマーは利権という甘い蜜のとりことなつた一にぎりの心ない者たちによって、亡国の危機に陥っています。彼らは保身に躍起で国民の声が届かない。大変な日常です。

またあのマングローブの蜂蜜をなめたいものです。でも、それよりなにより、かの国が慎み深い自制と温和な賢明さで昔のような穏やかな暮らしを一日も早く取り戻してほしい。やるせなく、せつにそう願ってやみません。

(鶴田幸一)



ハマザクロの仲間の花とアリ



旅する蝶アサギマダラとロッククヒルギ